

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

岩手県 地域ワークショップ 報告書

2019（平成31）年2月4日（月）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県ワークショップが開催されました。当日は、岩手県のオリンピック・パラリンピック教育推進校の先生方12名（小学校4名、中学校3名、高等学校3名、特別支援学校2名）及び推進校ではない学校の先生方7名と野田村教育委員会の方1名、そして各教育事務所の方4名にご来場いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2019（平成31）年2月4日（月）13時30分～16時30分

会場：サンセール盛岡「中ホール」

主催：岩手県教育委員会、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：24名

プログラム：

13:30～13:35 開会の挨拶

岩手県教育委員会事務局 保健体育課 総括課長 荒木田 光孝 氏

13:35～14:45 オリンピック・パラリンピック教育推進校の実践報告・協議・発表

14:45～15:05 講評

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員 吉永 武史 氏

15:05～15:15 休憩

15:15～16:25 シンポジウム「ROAD TO TOKYO 2020」

シンポジスト

サッカー元日本代表 福田 正博 氏

パラリンピックバンクーバー大会 チェアスキー大回転座位日本代表 横澤 高德 氏

コーディネーター

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員 吉永 武史 氏

16:25～16:30 連絡事項

16:30 閉会

開会行事では、岩手県教育委員会事務局保健体育課統括課長の荒木田光孝氏より挨拶がありました。荒木田氏からは、本事業への参加を通して、岩手県の子どもたちにスポーツの価値を再認識してもらいたい、と本事業の取り組みの方向性についてお話しいただきました。

次に、推進校の先生方に3～4名のグループに分かれていただき、実践報告及び協議が行われました。協議の場面では、本事業を推進するうえで、学校の規模の問題、学校の受け入れ体制の問題、授業や行事との関連付けの必要性、各学校の年間計画との組み合わせ等の課題が挙げられました。また、その解決策として、オリンピック・パラリンピアンへの講演を全校で行うのではなく、対象を限定して行うことでより深い学びにつなげることができる、等の意見も出ました。



荒木田 光孝 氏



推進校の先生の協議



推進校の先生の発表①



推進校の先生の発表②

続いて、サッカー元日本代表の福田正博氏とパラリンピックバンクーバー大会に出場したチェアスキーの横澤高德氏によるシンポジウムが行われました。コーディネーターは、本センターの吉永武史主幹研究員が務めました。東日本大震災の記憶、競技生活のこと、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、各種学校で講演や実技指導をする際の困難な点等についてお話されました。福田さんと横澤さん、そして吉永主幹研究員の軽快なリズムのやり取りに終始盛り上がっている様子でした。しかし、そのような中でも、東日本大震災のことや岩手県の子どもたちや先生方に伝えたいこと等について話が及ぶと、福田さんや横澤さんの一層真剣なまなざしと熱い想いに対して、参加された先生方が聞き入っている姿が印象的でした。



講演



参加した教員からの質疑応答